

令和五年度 第二学期始業式 校長式辞

おはようございます。

二学期始業に際し、式辞を述べます。

七・八月と、大変暑かった夏休み期間でした。水不足が心配になるほどの猛暑と、お盆には台風七号による豪雨がありました。皆さんの自宅の方は、被害はなかったでしょうか。台風七号並びにその他の大雨災害に遭われました方に対し、心よりお見舞い申し上げます。

本校は、海上での実習や潜水等、危険を伴う実習が多い特徴があります。災害や事故から身を守る。交通安全なども含め、日頃から安全確保を心掛けること、この意識は常に大切にしてください。

さて、みなさんから見て左側の外に、気象庁のアメダスの観測ポイントが設置されています。気温や風向、降水量等を自動計測し、宮津市のデータとして、気象庁が一括して配信もされています。知っている人、手を挙げてください。ここでは、アメダスの観測点となる前から、気温等観測されているのですが、相当前からの観測データが公表されています。

ここにいる三年生が生まれたのは、今から十八年前二〇〇五年生まれの人が多いと思います。

その二〇〇五年の八月の宮津市（海洋高校ポイント）での最高気温の平均は、気象庁のデータによると31.8℃です。

ところが、今年二〇二三年八月、まだあと三日ほどありますが、二十六日までの、同じく最高気温の平均は34.8℃、年によって変動はあるものの、ここだけを切り取っても、ちょうど3℃高い。ということになります。

今年は、八月十五日に台風七号の接近により最高気温が28.7℃という日があったにもかかわらず、この値ですので、数字から見ても、相当暑い日夏休みであったことが明らかであるということになります。

そんな、暑い夏休み（七・八月）でしたが、大きな事故や怪我等の報告もなく、生徒の皆さんが元気な姿で、再び海洋高校の学び舎に集えたことをうれしく思います。

この夏休み期間中も、この後の伝達表彰にありとおり、国際大会やインターハイも含め、海洋生の活躍が大変多くあり、大変うれしく思っているところです。

本日は一点だけ、「予測不可能な時代を安定して生きる。」について述べます。

現代の社会は、予測不可能な時代だと言われています。

例えば、一学期にはインフルエンザの感染拡大で学校休業としたこともありました。何年か続いた新型コロナウイルス感染拡大も、誰も予測していませんでした。

想定外の出来事が次々と起こる背景には、地球温暖化などに伴う気候変動、自然災害、新たな感染症の感染拡大、世界的な政治不安・テロ（戦争、エネルギー価格の高騰）、二技

術の進化と発展（良い意味でも、良くない意味でも用いられる。）などがあるとされています。

実際に、コロナや戦争、気候変動や異常気象、台風や地震といった災害など、予測が困難な事象が次々と起こっています。さまざまな事象が今後、世界や日本社会、個人にどう影響を及ぼしていくか、全てを見通すことは難しいと言わざるを得ません。

そこで、どんな力が必要か？調べてみますと、

- ① 情報収集力：正しい情報を適切に扱う力。チャットGPTや、スマートフォンからの情報だけでよいのでしょうか？
- ② 問題解決力：研究活動、探究学習で身に付ける力。皆さんは日頃から取り組んでいます。
- ③ 意思決定力：集団としての納得解の構築。他人と協働する力。
- ④ コミュニケーション力：部活動や寮・下宿生活でも培われる。
- ⑤ 臨機応変な対応力：柔軟性など。

教科の学習以外が取り上げられ、社会で必要とされる、また筆記試験等では判断できない力が大切であることがうかがい知れます。これを、「非認知能力」といいます。

これらの力は、教科の学習以外の部活動や生徒会等の委員会活動、下宿や寮での集団生活でも磨かれると思います。三年生がこれから臨む就職や進学の実験では、これらの力も試されることでしょう。

ちょうど、九月初めには学校祭があり、学年を越えた交流があります。いわゆる非認知能力の養成にはぴったりです。

結びに、この二学期は、三年生は進路決定に挑む大切な時期。二年生は、初めての地域魅力理解の研修旅行がある。また、専門学習も本格化し、部活動でも中心的存在となり力を多めに伸ばし発揮する時期、一年生は将来の進路を見据えながら、学科・コースの決定、部活動でも中心になります。それぞれの学年で大切な学期であります。

終業式は十二月二十二日（金）を予定していますが、季節が大きく変わるほどの長い二学期です。お互い、心身共の健康維持に努めながら、学習や部活動・運動、読書、資格取得、進路の活動、研究活動などに前向きな姿勢で取り組み、充実した学期になることを期待しています。 以上です。

令和五年八月二十八日

校長 上林 秋男